

岩手山ボランティア育成ビジョンのポイント

岩手山青少年交流の家を取り巻く ボランティア状況の的確に把握

立地条件、施設の持つ指導力、若者のニーズ、これまでの取り組み実績等を的確に把握することで質の高いボランティア養成を推進する。

岩手山青少年交流の家が目指す ボランティア育成の方向性を明示

単なる人手として養成しているのではなく、青少年教育のナショナルセンターとして相応しい育成の姿を明示。若者の自己実現へ向けたステップとなる体験を提供。「社会を生き抜く力の養成」「未来に飛躍する人材育成」へと繋げる。

育成における 「起点」→「継続」の循環的育成スキームの構築による戦略的な育成

育成の過程から「起点」と「継続」のポイントを的確に見極め、戦略的な育成を行う。「起点」においては、ボランティア養成研修「How to ボランティア」における「継続」のきっかけを3つの要素から仕掛け、「継続」においては、若者にとって魅力的で成長に繋がる「ブラッシュ・アップ・プロジェクト」を展開し、若者の内発的な動機を醸成していく。

これまでの調査研究から得られた知見を元に、ナショナルセンターとして先鋭的な視点に基づく育成を実現していく。

国立岩手山青少年交流の家

住所：020-0601 岩手県滝沢市後 292

TEL 019-688-4221 FAX 019-688-5047 MAIL iwate-vol@niye.go.jp

岩手山ボランティア育成ビジョン担当 ボランティア・コーディネーター 及川

岩手山ボランティア 育成ビジョン

平成 27 年
5 月 21 日
策定

育成における「起点」と「継続」

循環的なボランティア育成が若者の未来を拓く

平成 25 年 6 月 14 日に閣議決定された第 2 期教育振興基本計画を承けて、国立岩手山青少年交流の家における法人ボランティアの養成指針を「岩手山ボランティア育成ビジョン」として明文化しました。

TEN PARK

国立岩手山青少年交流の家

育成の「起点」

ボランティア養成研修「How to ボランティア」

この機会に、ボランティアの心に「火を点ける」ことができれば、岩手山が目指すべき循環的な人材育成の第一歩を踏み出すことができる。

3つの重点要素

1 「魅力的な体験プログラム」

施設の持つ最も有効な要素は「体験プログラム」である。体験プログラムは「普段なかなか経験することのできない、交流の家で学べる体験」であると考えられる。養成後のステップアップの機会として、体験学習法や人間関係作りの理論、更には教育心理学的な知見等を取り入れながら子どもと関わる専門性を、体験の中から学んで行くことも、参加者にとって魅力の一つとして映ると考えられる。

2 「魅力的なボランティア仲間の存在」

新規ボラが先輩ボラに対して「ボランティアってすごい」「あの先輩のようにになりたい」「どうしたらあんなに堂々と人前で話せるのだろうか？」といった、憧れや目標を抱くことが出来るロールモデルとして捉えることができる機会を作ることが重要である。また、多くの同期仲間の存在も重要であり、「ナナメ」の関係性が重要である。

3 「魅力的な講師の存在」

専門的な知見は、実際に体験して学んだ事柄を、ボランティア自身の経験知として深化させることが出来る。そのために、ボランティアに関する知識経験が豊富であったり、教育心理学的な専門知見を有したりする人間的な魅力にあふれた講師を招聘することで、ボランティア活動のスタートとなる養成研修にふさわしい研修になると考えられる。また、実社会で働く専門性を有した人物としても講師の役割は重要である。ボランティアとして取り組んだ先に、「どんな将来が待っているのか？」あるいは「どんな将来を目指すことが出来るのか？」「何に役立つのか？」等、実際に社会で活躍している人物が参加者に刺激的な魅力を与えると考えられる。

育成の「継続」

「ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト」

調査研究で得た知見から得た、継続に向けた新たな「価値」の創出。若者が「社会を生き抜く力」を身に付けること。そしてプロジェクト成功に向けた取り組みの課程で得られる「自分」に対する「信頼」。自信にあふれる若者を育てる、自尊感情を育むプログラム。

調査研究から得た知見

ボランティアは子どもと関わる企画活動を展開することで、情動知能が向上する

人間の感情やその感情に対する対処、適応などの情動能力が、対人間、あるいは様々な社会状況において生じる複雑な問題において大きな役割を果たす。(Mayer and Salovey 1995)
→急激に変化する現代社会において、必要な「社会を生き抜く力」を図る指標となる

4 「自主企画活動の立案及び運営の体験」

継続して取り組むボランティアが今後も交流の家のボランティアとして活動を続けていくには、交流の家がある一定以上の付加価値を提供し続けることが重要であると考えられる。育成を行っても、活躍の場や自己研鑽の場がなければ、ボランティアにとっては参加・活動する価値がなくなり、アルバイトやその他のコンテンツ（趣味やサークル活動等）といった他の有益な選択肢へと流れてしまうだろう。そこで、交流の家では継続して取り組むボランティアに対する新たな研鑽機会として、ボランティア自身のアイデアで事業を企画運営することが出来る教育事業「ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト」を展開する。「ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト」は、平成27年度に新規に実施する教育事業であり、その対象は交流の家で登録している法人ボランティアである。「ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト」は、法人ボランティアが複数の企画チームを組織し、自然体験キャンプや、学生交流キャンプ等様々な活動を自由に考え実施するプログラムである。

岩手山ビジョンが目指す循環的育成スキーム

青少年を取り巻く現状と課題

第2期教育振興基本計画の策定に伴う背景は、家庭の教育力の低下や情報テクノロジーの発達・グローバル化の進展に伴う社会構造の急激な変化等が挙げられるだろう。

青少年教育施設のボランティア育成の対象となる年代は

「社会の荒波に船出するための最後の教育機会を迎えている」

職員に依存することなくボランティアが次代のボランティアを育てて行く循環



岩手山ボランティア育成ビジョンは、簡潔に述べると「育成の起点」で新規ボランティアを開拓し、「育成の継続」で継続的に活動するボランティアを育成していくことである。継続的に活動するボランティアを「育成の起点」において、ロールモデルとして参画させることで、人材育成の好循環を作り出し、循環的ボランティア育成スキームを構築することができると考えられる。

「育成の起点」と「育成の継続」の2軸を包括的に捉えることで、岩手山ボランティア育成ビジョンにおける「循環的育成スキーム」として完成する。